

航空自衛隊は組織的活動のプロ集団！

自衛隊は、様々な機能を有した組織的活動を常としています。

特に航空自衛隊は「掛け算の組織」と言われ、一つの機能喪失が組織全体の能力発揮を妨げます。隊員一人一人が組織の一員として能力を発揮するとともに、各組織が有機的に連携することで、その真価が発揮されます。

日々、部隊の指揮、統御、管理を行い、個人～組織全体の能力を最大限に発揮させ任務を達成する、それが航空自衛隊です。

空を守る唯一の組織

The only organization protecting Japan's airspace

わが国では、地上における警察、海における海上保安庁に相当する「空の警察力」が存在していません。そのため航空自衛隊は、平時から有事まで一貫して我が国の空の平和と安全を担う唯一の組織となっています。



Securing "Air Superiority"

「航空優勢の確保」

もし航空優勢がなければ、陸上作戦も海上作戦も円滑に実施することができません。航空優勢の確実な維持は、陸海空すべての作戦に不可欠です。

航空警戒管制部隊

Aircraft Control and Warning Units



戦闘機部隊

Fighter Units



空中給油・輸送部隊

Aerial refueling and Transport Units



地对空誘導弾部隊

Surface-to-Air Guided Missile Units



航空自衛隊にある色々な職種

航空自衛隊には、多種多様な任務を遂行するために様々な職種が存在します。パイロット、要撃管制、高射など戦闘に直接関わるものから、航空機、レーダー、通信、車両の整備や、会計、給養、施設、補給など基地や部隊の維持運用に関わるものまで多数あります。

操縦・航法

Pilot & Navigator

戦闘機、偵察機、輸送機及び特別輸送機などを操縦し、防空、航空偵察、航空輸送及び航空救難などを行っています。



宇宙

Space

宇宙領域専門部隊で、宇宙空間の安定利用のため、宇宙状況監視などを行います。

気象

Weather

部隊の運用に必要な航空気象に関するデータの収集、予報などを行い、それらの情報を全国の部隊に提供しています。

航空管制

Air Traffic Control

飛行場において、離着陸する航空機を誘導する航空交通管制業務を行っています。

要撃管制

Ground Controlled Interception

365日、昼夜を問わず我が国周辺空域を監視し、接近又は侵入してくる航空機等を早期に発見、識別し、必要に応じて戦闘機の誘導を行っています。

高射

Air Defense Artillery

ペトリオットミサイルシステムなどを運用し、航空機部隊や警戒管制部隊と連携して航空機や弾道ミサイルなどを撃破することを任務としています。



通信

Communications

有線、無線通信器材を使用した電報などの送受信業務及び航空通信に関する業務を行っています。

無線レーダー整備

Communications Electronics System

有線、無線通信器材を使用した電報などの送受信業務及び航空通信に関する業務を行っています。

航空機整備

Aircraft Systems and Aircraft Maintenance

航空機、航空機用エンジン等の整備、修理などに関する業務を行っています。

武装

Weapons and Munitions

戦闘機に搭載する武器、弾薬及びレーダーなどの整備に関する業務を行っています。

車両整備

Vehicle Maintenance

車両の整備、動力器材及び無動力器材の整備に関する業務を行っています。

研究開発

Research and Development

航空機、誘導弾、通信電子システムといった各種装備品等の研究開発に関する調査、分析、試験、評価などの業務を実施しています。

補給

Supply

航空自衛隊で使用する部品の需給統制、在庫管理、取得、保管、配分、処分などを行っています。

施設

Civil Engineering

基地などにおける滑走路や建物の維持補修、電気、給排水施設やボイラーなどの管理業務を行っています。

警備

Security

司法警察職員として、部内の秩序維持に関わる業務を行う「警務」と施設等の管理と隊員の安全を守る「警備」の業務を行っています。



消防

Fire Protection

航空救難、建物火災、基地等近傍火災などの消防活動を行うほか、消火設備の管理や、防火教育などを行っています。

輸送

Transportation

人員・貨物の車両輸送、空輸する貨物の準備・搭載のほか、輸送機に搭乗して客室・貨物室に関する業務を行っています。

会計

Finance & Accounting

航空自衛隊で使用するすべての物品の購入、また、隊員の給与、出張の旅費等の計算、出納に関する業務を行っています。

救難

Rescue and Recovery

航空機に搭乗し、遭難者の捜索、救助を実施します。また、被救助者に対する救急処置を行っています。



衛生

Medical

診療、健康診断、身体検査など隊員の健康管理を行うとともに、環境衛生、食品衛生検査を行っています。

その他

Others

プログラム・情報・語学・工作・調達・印刷製図・監理・総務・人事・厚生・心理・教育・法務・音楽など、個人の希望と適性により決定されます。

国防を支える人材から “地域・企業を支える人材”へ

危機管理能力

Crisis management capability

組織管理能力

Organizational management ability

広範・高度な専門的知識・技能

Expert knowledge・Professional skills

危機管理能力

不測の事態、危険な場面でも、限られた時間の中で影響を局限し、戦力を適切に運用する能力

- 航空自衛隊は、我が国の空の平和を守る唯一の危機管理組織
- 即応性を維持し、空の守り、災害時にもいち早く広範に行動

組織管理能力

組織の総合力を所望の時期・場所で発揮できるように、平素から信頼関係に基づく指揮系統の維持、人材育成、各種管理※を並行して行う能力

※訓練、人事、施設、装備、予算、安全 等

- 多様な機能、年齢層からなる数百名規模のリーダーとして総合力を発揮
- 総合力発揮のために必要な個人の驍や強く・しなやかな心の醸成等も実施

広範・高度な知識・技能

高度な科学技術を使用した装備を開発・運用しつつ、経済性、効率性、コンプライアンス等に留意した活動を行うために必要な広範・高度な知識・技能

- 他省庁への出向や海外勤務を含む補職と国内外の大学院等を含む教育を計画的に実施
- 防衛分野だけでなく、政策策定等の行政分野に係る知識・技能も修得

- <例>
- 省庁出向：内閣府、外務省、経済産業省
 - 海外勤務：米、露、仏、中、印、韓、ベルギー、イスラエル、モロッコ 等
 - 大学院等：慶応、上智、青山学院、ジョンズ・ホプキンス（米） 等

航空自衛隊が紹介する人材

Recruitment

✈️ 定年退職者 Retirees

区分	階級	年齢	年間退職者数	職務
幹部	1佐	57歳	約40名	・ 500人規模の部隊の指揮統率 ・ 空自の方針決定に大きく関与
	2佐・3佐	56歳	約200名	・ 100人規模の部隊指揮統率 ・ 空自の主力スタッフ、各種計画や分析検討の主担当者
	1尉・2尉・3尉	55歳	約100名	・ 小規模部隊の指揮統率 ・ 作業現場の指揮監督、行事・訓練の企画等
准曹	准尉・曹長・1曹		約600名	・ 50人規模の作業統制、現場のチーフ、職域のプロ

✈️ 任期満了退職者 Expiration of the term Retirees

自衛隊新卒と言います！

区分	階級	年齢	年間退職者数	職務
士	士長	20～30歳代	約500名	・ 現場作業、マニュアルに沿ったチーム業務に従事

退職自衛官の危機管理分野での活用

企業の3つの資産を守る BCP・BCM

✈️ 「人財」：従業員、顧客、地域住民を守る

だけでなく！ 活動を通じガバナンス力が向上、社員の自主性や部署間の連携が向上

✈️ 「事業」：事業、施設、設備、サプライチェーンを守る

だけでなく！ 活動を通じ、企業の強みと弱み、事業優先度などが明確になり、通常業務が改善

✈️ 「信頼」：人財を守り事業を継続することで信頼を守る

だけでなく！ 活動を通じ、長期的収益の源泉たるブランドイメージが向上



今や当たり前となったBCPですが、実効性が求められています。我々は常に危機を想定して計画・訓練を行ってきました。この文化は、**実効性のあるBCP策定とその波及効果**で、きつとお役に立てます。

新たなリスクへの対応

✈️ 新型インフル、リーマンショック、大地震・津波・原発事故、風水害、そしてCOVID-19・・・「次は何か？」

✈️ オールハザード&マルチハザードBCP → 「不測事態に耐える仕組みづくり」

✈️ 組織・社員・ビジネスのレジリエンス強化 → 「しなやかに耐える態勢づくり」



何をやってくるかわからない**相手を想定**して、あらゆる視点から**対処方策**を考え、組織と隊員を**訓練**してきました。この経験は、**新たな時代のリスク対策**に、きつとお役に立てます。

危機の現場でのリーダーシップ

✈️ 危機対応時の判断

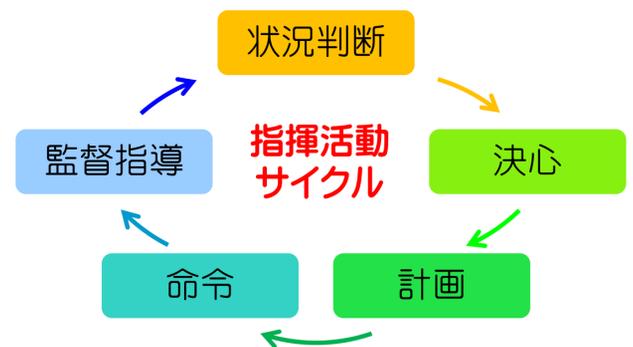
- ・ 一番重要な業務は何ですか？
- ・ その推進のために何が必要ですか？
- ・ 状況の変化の中で如何に推進しますか？



✈️ 危機発生時のリーダーシップ

- ・ 目的達成のための合理的な計画の策定
- ・ 必要なものの優先度策定と不要排除の決断
- ・ 継続的な状況判断と指示による事業の継続

自衛隊の思考プロセスを活用してみませんか！



有事を前提とした思考プロセスにより、平素(計画策定・訓練)から危機発生時までシームレスに対応

空自OBの活用実績

No	業態	空自での職種	現役職	業務内容
1	製造会社	航空機整備	調達総括部参与	本社BCP事務局員、BCP策定業務等
2	航空会社	操縦士	総務部長代理	BCP策定業務、訓練計画・成果分析
3	空港運営会社	要撃管制官	保安防災参与	BCP見直し、訓練計画・成果分析
4	マンション管理会社	操縦士	総務部長補佐	BCP見直し、社内体制検討、訓練計画
5	病院	要撃管制官	総務部	災害等対処計画の見直し、総務全般
6	建築会社	要撃管制官	安全品質環境本部	BCP見直し、訓練計画、子会社BCP策定
7	情報管理会社	操縦士	参事	危機管理全般、BCP強化、営業

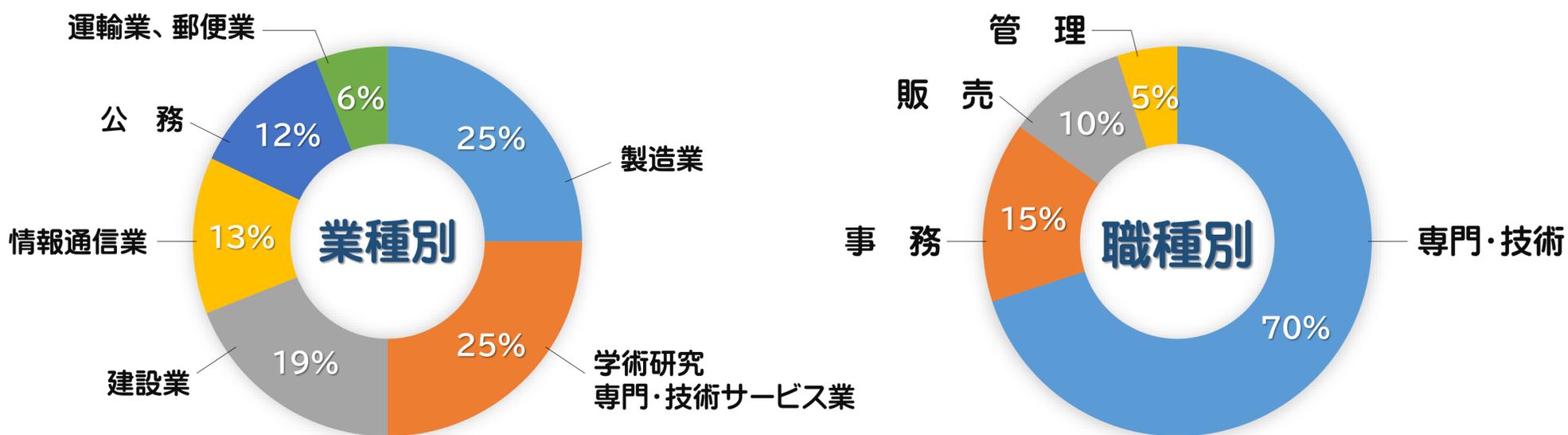
退職自衛官の再就職先

退職自衛官の再就職先

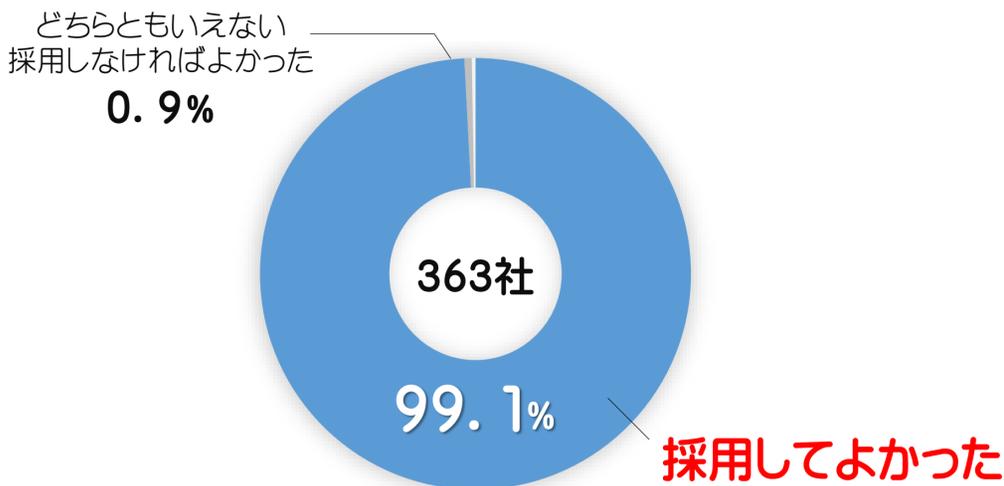


※日本標準産業分類による。

1等空佐の再就職先



雇用企業の声



- ✈ 危機管理対応能力の強化
- ✈ 安全管理や社員教育の充実
- ✈ 組織制度の見直し
- ✈ 管理職候補の不足
- ✈ 防衛業界への進出

- よかった理由 (複数回答)
- ① 勤務態度が勤勉 (真面目) 55%
 - ② 責任感が強い 54%
 - ③ 規律性があり組織に馴染む 28%



このような場面で活躍する人財をお求めでしたら是非ご相談ください
皆様のニーズに最適な人材をご紹介します

活躍する退職自衛官

Case1 IHI相馬工場で磨くBCP



IHI相馬工場 防災アドバイザー 戸田氏 山頭氏

基地司令が指揮

「『アゴ・足・枕』を確保せよ」。11年3月の地震発生後、パニックに陥った工場で陣頭指揮をとったのは当時、相馬工場で技能訓練所所長だった戸田真一郎氏だ。戸田氏は防衛省で襟裳分屯基地司令などを歴任し、有事に必要な判断を即時に出せる。

同工場では防衛関連機器を手がけることもあり、防衛省出身者を社員として雇用している。震災前の防災対策について当時の相馬工場で総務課長だった久野賢史氏は「形ばかりの避難訓練で到底生かせなかった」と振り返る。

東日本大震災では相馬工場は停電し、工作機械は横滑りした。事務所の天井が落ち、工具や油が床に散乱する惨状だった。着の身着のまま屋外に避難した従業員らは、暖を取る方法もなかった。

そこで戸田氏が呼びかけたのが先の言葉だ。アゴとは食事、足は移動手段、枕は安全に寝られる宿泊場所を指し、災禍で生き延びるためにまず優先すべき事項だ（以下省略）。

※日経産業新聞「IHI、相馬で磨くBCP 被災工場で防衛省OBが指揮」(2022.6.7)より抜粋
本記事の利用については、日本経済新聞社の許諾を得ています。
無断での複写・転載は禁じられています。

東日本大震災が防災の原点

東日本大震災で被災した相馬工場

福島県 相馬市

アゴ・足・枕の確保が最優先

IHI防災アドバイザー 戸田氏

- アゴ 社内各所から食糧調達
- 足 大型バスやガソリン手配
- 枕 復旧応援者向け宿泊施設

復旧まで6カ月の計画が2カ月で達成

22年3月の地震も1カ月で復旧

被災ごとに対策改良

- 避難場所の追加
- インフラ復旧のチェックリスト

マニュアルは目立つ色で被災時に発見しやすく

2021年10月29日
株式会社IHI 相馬事業所

- 災害対策10の掟
- 「3・11」で学んだ必要な備品リスト
- 意思決定のプロセス

防衛省出身者がまとめたBCPのポイント

- 1、意思決定者の順位付け
- 2、社員同士の協力体制
- 3、自治体との連携
- 4、産業界とのつながり

他者とのやり取りをいとわないこと

技能訓練所長 山頭氏

新型コロナ禍でも効果発揮

- デルタ株流行で機動的に「4勤3休」導入
- 相馬市と連携し市役所内にPCR検査所設置

クラフックス 桑山氏

Case2 全国初の広域防災危機管理官



奥能登広域圏事務組合 危機管理官 佐藤氏

奥能登広域圏事務組合は、輪島市、珠洲市、能登町及び穴水町の2市2町で広域消防や空港利用促進業務等を行う特別地方公共団体です。2019年10月、広域防災に関する事項と危機管理官の設置に関する条例等の改正を行い、全国初の危機管理専門ポストが作られました。

私の業務は、各市町が作成する地域防災計画、国民保護計画及び防災訓練等に関する指導、助言並びに災害等発生時における自衛隊など関係機関との連絡調整に関する事項です。

具体的な活動として、防災対策会議等への参加や防災訓練計画の作成支援のほか、毎月、各市町危機管理担当部局を訪問し意見交換・情報提供を行う業務や、防災士・中高生・団体等に対する防災教育・講演等の防災啓発活動を行っています。

2020年6月には新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、陸自（金沢）への災害派遣要請にかかる調整を行い、圏内の医療従事者、社会福祉関係職員、消防職員等約140名に対する感染防護服着脱及びゾーン設定要領等の教育・訓練を実施していただいたことにより、職員の対処能力向上や施設内のクラスター防止手順の策定等、大きな成果を生むことができました。



※令和3年度版 防衛白書より抜粋